

地質標本館 体験イベント

「来て見て持って帰ろう！きれいな砂の世界」

兼子尚知¹⁾・酒井 彰¹⁾・利光誠一¹⁾・常木俊宏¹⁾・畑 香緒里¹⁾・
谷島清一¹⁾・朝川暢子¹⁾・川鈴木 宏²⁾・辻野 匠³⁾

地質標本館では、2018年6月23日（土）に、体験イベント「来て見て持って帰ろう！きれいな砂の世界」を実施しました。

各地で採取した砂を実体顕微鏡で観察し、そのような砂がなにでできているのか、どうしてきれいな砂ができるのか、について学習するイベントです。自分で砂のプレパラートを作成して、記念にお持ち帰りいただけます。

実習に使用した砂は、東京都新島の羽伏浦^{ほぶしうら}の石英主体の砂、愛知県東栄町の振草鉦山^{ふりくさ}産パイライト、高知県高知市の桂浜の砂の3種類で、その中から2種類を選んでいただき、スライドガラスサイズの厚紙に貼った両面テープに貼り付けます。こうしてできたサンプル（プレパラート）の砂を実体顕微鏡で観察しました。色とりどりの砂を実体顕微鏡で拡大観察すると、肉眼では観ることのできない

その美しさに、参加者のみなさんは「きれい！」と感動の声をあげます。

その他にも、砂鉄、ガーネットサンド、ハワイのグリーンサンド、うぐいす砂、竹富島の星の砂、砂漠のレッドサンド（ヘマタイトコーティングの石英砂）などを用意し、実体顕微鏡で観察していただきました。

顕微鏡観察の実習が終わると、最後に島根県大田市の琴ヶ浜の鳴り砂を鳴らす体験をしていただきました。鳴り砂とは、海岸の砂浜を歩くと足元から「キュッ！」と音がする砂のことです。これをワイングラスなどに入れて、木の棒などで突くと簡単に鳴り砂の実験ができます。

砂の観察体験は、これまで移動地質標本館等の出展の一部として研究所外で実施したことはありましたが、地質標本館内で行うのは初の試みでした。予想していたよりも



写真1 実習会場の様子。

1) 産総研 地質調査総合センター 地質情報基盤センター
2) 産総研 福島再生可能エネルギー研究所 研究業務推進室(元 地質調査総合センター 地質情報基盤センター)
3) 産総研 地質調査総合センター 地質情報研究部門

キーワード：地質標本館，砂，実体顕微鏡，プレパラート標本鑑定



写真2 実体顕微鏡で砂を観察します。

多くのみなさまがご来館くださり、開館時刻前から玄関前に列ができ始めたので、急遽整理券を発行することになりました。できるだけ多くの方に体験していただくため、1回あたりの実施時間を30分に短縮して、当初計画では計40名(組)のところ、90名(組)に参加いただきました。

好評を博した砂の観察イベントを恒例行事として実施できるよう、検討してまいります。

KANEKO Naotomo, SAKAI Akira, TOSHIMITSU Seiichi, TSUNEKI Toshihiro, HATA Kaori, YAJIMA Seiichi, ASAKAWA Nobuko, KAWASUZUKI Hiroshi and TUZINO Taqumi (2018) Geological Museum Experience Event "The world of beautiful sand".

(受付:2018年10月29日)